

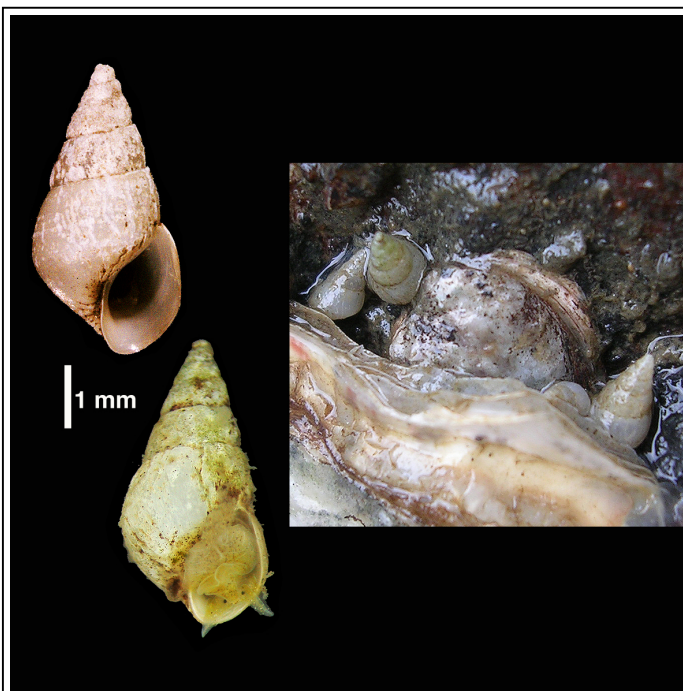
カキウラクチキレモドキ *Brachystomia bipyramidata* (Nomura)

【選定理由】

本種は河口域から内湾の干潟や岩礁に生息するマガキの体液を吸って生きている。宿主であるマガキは水質汚濁、護岸工事等で生息環境がかなり悪化した場所でも多産するが、本種は生息環境が良く保全された場所に生息するマガキにのみ寄生する。従って、健全な個体群が保存されている生息地は限られている。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 4 mm で微小。殻は塔型で白色、成長脈はやや荒く、軸唇には弱い襞が 1 本ある。



南知多町河和, 2014 年 5 月 16 日, 早瀬善正採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は限られている。汐川干潟の広大なマガキ床には大きな個体群が保存されている。ただし、年によって個体数に変動が認められる。水質の改善によって、いままで本種が生息していなかったマガキ群集に新たに生息が確認される例もある（木村, 2004）。近年では、旧幡豆郡（早瀬・他, 2011）、庄内川河口域（川瀬, 2015）でも生息が確認されている。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。松島湾、三河湾、瀬戸内海、有明海、富岡湾に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では、まだ健全な生息地が残っているが、生息環境が悪化した場所では生息が認められないので注意を要す。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 早瀬善正・種倉俊之・社家間太郎・松永育之・吉川 尚・松浦弘行・石川智士, 2011. 愛知県幡豆町の干潟および岩礁域潮間帯の貝類相. 東海大学海洋研究所研究報告 (32),
川瀬基弘, 2015. カキウラクチキレモドキ, p. 445. in: レッドデータブックなごや 2015 動物編. 503pp. 名古屋市環境局.
木村昭一, 2004. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相. かきつばた, (30): 14-20.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)